

Quest® NetVault® Plug-in *for Microsoft 365*  
13.2.5

**ユーザーズ・ガイド**



© 2023 日本クエスト・ソフトウェア株式会社

ALL RIGHTS RESERVED.

本書には、著作権によって保護されている機密情報が記載されています。本書に記載されているソフトウェアは、ソフトウェア・ライセンスまたは機密保持契約に基づいて提供されます。本ソフトウェアは、当該契約の条項に準拠している場合に限り、使用または複製することができます。本書のいかなる部分も日本クエスト・ソフトウェア株式会社の書面による許可なしに、購入者の個人的な使用以外の目的で、複写や記録などの電子的または機械的いかなる形式や手段によっても複製または転送することはできません。

本書には、Quest Software 製品に関連する情報が記載されています。明示的、黙示的、または禁反言などを問わず、本書または Quest Software 製品の販売に関連して、いかなる知的所有権のライセンスも付与されません。本製品の使用許諾契約の契約条件に規定されている場合を除き、QUEST SOFTWAREはいかなる責任も負わず、製品に関連する明示的、黙示的または法律上の保証(商品性、特定の目的に対する適合性、権利を侵害しないことに関する黙示的保証を含む)を否認します。QUEST SOFTWAREは、損害が生じる可能性について報告を受けたとしても、本ドキュメントの使用、または使用できないことから生じるいかなる、直接的、間接的、必然的、懲罰的、特有または偶発的な障害(無期限、利益の損失、事業中断、情報の損失も含む)に対しても責任を負わないものとします。Quest Software は、本書の内容の正確性または完全性について、いかなる表明または保証も行わず、通知なしにいつでも仕様および製品説明を変更する権利を有します。Quest Software は、本書の情報を更新する一切の義務を負いません。

本文書の使用に関してご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

日本クエスト・ソフトウェア株式会社  
宛先: 法律部門  
東京都新宿区西新宿6-10-1  
日土地西新宿ビル13F

日本国内および海外の事業所の情報に関しては、弊社のWebサイト(<https://www.quest.com/jp-ja>)を参照してください。

#### 特許

高度なテクノロジーはQuest Softwareの誇りです。特許および出願中の特許がこの製品に適用される可能性があります。この製品に適用される特許に関する最新情報については、<https://www.quest.com/jp-ja/legal>の弊社Webサイトを参照してください。

#### 商標

Quest Software、Quest、Questロゴ、QoreStor、およびNetVaultは、日本クエスト・ソフトウェア株式会社の商標および登録商標です。Questの商標の詳細な一覧については、<https://www.quest.com/jp-ja/legal/trademark-information.aspx>を参照してください。その他すべての商標および登録商標は各社に帰属します。

#### 凡例

- **警告:** 警告アイコンは、潜在的な資産の損害、個人の負傷または死亡の可能性を表しています。
- ⚠ **注意:** 注意アイコンは、指示に従わなかった場合に、ハードウェアの損傷やデータの損失につながる可能性があることを表しています。
- ℹ **重要、メモ、ヒント、モバイル、またはビデオ:** 情報アイコンは、補足的情報を表しています。

NetVault Plug-in for Microsoft 365 ユーザーズ・ガイド  
更新 - 3 2023  
ソフトウェアバージョン - 13.2.5

# 目次

<b>NetVault Plug-in for Microsoft 365 – はじめに</b> .....	<b>3</b>
NetVault Plug-in for Microsoft 365: 概要 .....	3
主な利点 .....	3
機能概要 .....	4
対象ユーザー .....	5
参考資料 .....	5
<b>プラグインのインストールと削除</b> .....	<b>6</b>
インストールの前提条件 .....	6
Azure AD および SharePoint Online の制限事項 .....	7
プラグインのインストールまたはアップグレード .....	7
プラグインの削除 .....	7
ライセンスモデルのサポート .....	8
<b>プラグインの設定</b> .....	<b>9</b>
設定用の証明書の追加 .....	9
PowerShell を使用した自己署名証明書の作成 .....	9
Azure AD 管理ポータルでの証明書の追加 .....	10
ローカルマシン証明書ストアへの自己署名証明書のインポート .....	10
Microsoft 365 管理ポータルを使用した設定の詳細の取得 .....	11
バックアップとリストアのための SharePoint Online の準備 .....	13
プラグインへの設定の詳細の入力 .....	13
マルチテナントのサポート .....	15
テナントの追加 .....	15
テナントの編集 .....	16
テナントの削除 .....	16
設定ファイルのパラメータの変更によるバックアップおよびリストアのパフォーマンスの向上 .....	16
<b>データのバックアップ</b> .....	<b>19</b>
バックアップおよびリカバリ戦略の定義 .....	19
除外および包含に使用するパターンの追加 .....	20
バックアップの実行 .....	21
バックアップ対象データの選択 .....	21
バックアップ・オプションの設定 .....	22
ジョブ・ジョブのファイナライズと実行 .....	23
.....	23
継続的なデータ保護バックアップ .....	23
前提条件 .....	23
継続的なバックアップの実行 .....	23

継続的なバックアップの対象データの選択 .....	23
継続的なバックアップオプションの設定 .....	25
継続的なバックアップジョブのファイナライズと実行 .....	25
[ターゲットストレージ]オプションを選択するには、クリックして、以下の手順を実行しま す .....	26
<b>データのリストア .....</b>	<b>27</b>
リストア対象データの選択 .....	27
Outlook のリストアオプションの設定 .....	28
Azure AD のリストアオプションの設定 .....	28
リストア・ジョブのファイナライズと実行 .....	29
リストアプロセス中のメールボックスおよび OneDrive アカウントの再配置 .....	29
別のテナントユーザーへのメールボックスおよび OneDrive アカウントの再配置 .....	30
細分化された項目の検索 .....	30
<b>トラブルシューティング .....</b>	<b>31</b>
テクニカル・サポート用リソース .....	32

# NetVault Plug-in for Microsoft 365

## － はじめに

- [NetVault Plug-in for Microsoft 365 : 概要](#)
- [主な利点](#)
- [機能概要](#)
- [対象ユーザー](#)
- [参考資料](#)

## NetVault Plug-in for Microsoft 365 : 概要

Quest® NetVault® Plug-in for Microsoft 365 (Plug-in for Microsoft 365) は、SaaS (Software as a Service) を提供するクラウドベースのサービスである Microsoft 365 を使用して作成するデータのリカバリ可能性に対する信頼性を高めます。本プラグインを使用すると、さまざまなリカバリシナリオに対応したバックアップポリシーを柔軟に作成できます。また、Web ベースのユーザーインターフェイス (WebUI) と自動化されたワークフロープロセスを使用して、一元化された方法で Microsoft 365 のバックアップおよびリストアのポリシーを確立、設定、定義できます。幅広いバックアップ・デバイスが統合されるため、データの保護およびオフサイトへの保存によって障害復旧および業務継続性の目標が満たされるという安心感を得ることができます。

本プラグインにより、Microsoft 365 で Microsoft Outlook、OneDrive、SharePoint Online、Teams、Azure AD の各アカウントのフルバックアップと増分バックアップおよびリストアが可能になります。本プラグインを使用すると、通常のバックアッププロセスの一環として、アクセス可能な場所にバックアップが保存されます。バックアップのサイズを管理し、ネットワーク帯域幅に対応するために、バックアッププロセスの一環としてさまざまな項目を包含または除外することができます。

**i** | **メモ** : Plug-in for Microsoft 365 は、SharePoint Online をサポートしています。SharePoint Server のバックアップおよびリストアはサポートしていません。

## 主な利点

- **Microsoft 365 へのサブスクリプション時の信頼性を高め、リスクを低減** : 本プラグインを使用すると、さまざまなリカバリシナリオに対応できる柔軟性のあるバックアップポリシーを作成できます。

バックアップ機能には以下のものがあります。

- 個人、共有、およびリソースメールボックスの保護
- カレンダー、カレンダーグループ、およびイベントの保護
- SharePoint Online サイトとサブサイトの保護
- Teams の保護
- データをオンラインにした状態、すなわちアクセス可能な状態でフル、増分バックアップを実行

**i | メモ :** Teams の場合、フルバックアップにはすべての標準項目が含まれます。増分バックアップには、ファイル、フォルダ、およびチャットメッセージが含まれます。

- OneDrive にあるファイルやフォルダの保護
- ユーザー、グループ、およびサービスプリンシパルのフルバックアップと増分バックアップ
- マルチテナントアプリケーション認証および承認モデルのサポート

プラグインを使用してバックアップ・ポリシーを実装すると、障害発生時に必要となるリカバリ作業をおろそかにすることなく、より重要なタスクに専念することができます。また、どのような状況であろうと、電子メールが保護されていることが分かっているため、IT 管理者の安心感が高まります。

- **高速なリストアによりダウンタイムを短縮 :** 本プラグインでは、リストアする対象とリストア元のバックアップセットを選ぶだけで、自動的にリストアが実行されます。

この他、以下のリストア機能を備えています。

- フルリストアおよび増分リストア
- 個人、共有、およびリソースメールボックスのリストア
- カレンダー、カレンダーグループ、およびイベントのリストア
- サイトおよびサブサイトのリストア
- Teams およびサポートされている Microsoft アプリケーションのリストア
- 個別の電子メールメッセージのリストア
- 個別のファイルやディレクトリのリストア
- ユーザー、グループ、およびサービスプリンシパルのリストア
- Teams の個別のファイル、フォルダ、アプリ、およびチャットのリストア
- SharePoint Online のドキュメントライブラリ、ページライブラリ（サイトページ）、イベント、およびリストのリストア

- **ビジネスの継続性を確保 :** ビジネス上重要なアプリケーションのデータ保護でオフサイト・バックアップは重要です。本プラグインは幅広いバックアップ・デバイスと NetVault との統合を有効に活用します。NetVault では、バックアップの保存先バックアップ・デバイスを柔軟に選択することができます。

ユーザーデータに対するネイティブのバックアップ機能や柔軟性の高いリカバリ機能の欠如（削除した電子メールの 30 日制限など）に対処するために、プラグインを使用して、より堅牢なバックアップおよびリカバリを実装することができます。また、本プラグインは、ユーザーのメールボックスや OneDrive が破損した場合にも、データを確実に保護します。

- **バックアップ・ウィンドウを削減し、ストレージを軽減 :** 本プラグインにより、電子メール環境が保護され、障害復旧に備えてオフサイトに保存されているという安心感が得られます。同時に、経験が浅くてもリストアを開始できるため、ダウンタイムが短縮され、ビジネス継続性が高まり、管理者は常時待機している必要がなくなります。

## 機能概要

- フルリストアおよび増分リストア
- 個人、共有、およびリソースメールボックスの保護
- カレンダー、カレンダーグループ、およびイベントの保護
- OneDrive にあるファイルやフォルダの保護
- データがオンラインかつアクセス可能な状態での Teams のフルバックアップおよび増分バックアップの保護
- 証明書ベースの認証

- マルチテナントのサポート
- 個人、共有、およびリソースメールボックスのリストア
- カレンダー、カレンダーグループ、およびイベントのリストア
- Teams およびサポートされている Microsoft アプリケーションのリストア
- 個別の電子メールメッセージのリストア
- 個別のファイルやディレクトリのリストア
- ドキュメントおよびフォームテンプレートのリストア
- スタイルライブラリのリストア
- サイトページおよびサブサイトページのリストア
- Azure AD ユーザー、グループ、およびサービスプリンシパルのリストア
- テナント間を含む、リストア中の OneDrive データおよび Outlook データの再配置

## 対象ユーザー

本ガイドは、Microsoft 365 のバックアップおよびリカバリを担当するユーザーを対象としています。Microsoft 365 の管理について習熟していることを前提としています。Microsoft 365 についての高度な知識があれば、効率的なバックアップおよびリストア戦略の定義に役立ちます。

## 参考資料

Quest では、本プラグインの設定時および使用中に **Microsoft 365 のドキュメント** (<https://docs.microsoft.com/ja-jp/Office365/> および [https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/dn127064\(v=office.14\).aspx](https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/dn127064(v=office.14).aspx)) をすぐに参照できるよう準備しておくことをお勧めします。

以下のドキュメントも利用可能です。

- Quest NetVault インストール・ガイド：このガイドでは、NetVault サーバーおよびクライアント・ソフトウェアのインストール方法について詳しく説明しています。
- Quest NetVault アドミニストレーターズ・ガイド：このガイドでは、NetVault の使用方法と、すべてのプラグインで共通の機能について詳説します。
- Quest NetVaultCLI リファレンス・ガイド：このガイドでは、コマンドライン・ユーティリティの詳細な説明を提供します。

これらのガイドは、<https://support.quest.com/technical-documents> からダウンロードできます。

# プラグインのインストールと削除

- インストールの前提条件
- プラグインのインストールまたはアップグレード
- プラグインの削除

## インストールの前提条件

本プラグインは、Microsoft .NET Framework バージョン 4.7.2 以降をサポートする 64 ビット版 Windows Server ベースの NetVault サーバまたはクライアントにインストールできます。

- **Microsoft .NET Framework がインストールされていることを確認します。**使用するサーバは、.NET Framework のバージョン 4.7.2 以降をサポートしている必要があります。
- **NetVault サーバおよびクライアントソフトウェアをインストールします。**最低でも NetVault クライアントソフトウェアがサーバにインストールされている必要があります。NetVault サーバまたはクライアントソフトウェアのインストールの詳細については、『Quest NetVault インストールガイド』を参照してください。
- **サーバまたはクライアントが帯域幅の大きいインターネットにアクセスできることを確認します。**バックアップされるデータはクラウドベースのサーバ上に存在し、ローカルストレージメディアにダウンロードされるため、Quest では、インターネット帯域幅が大きいクライアントまたはサーバにプラグインをインストールすることをお勧めします。
- **TLS バージョンを更新します。**Microsoft は TLS 1.0 および 1.1 を廃止しました。これにより、OneDrive、Teams、SharePoint Online のバックアップが失敗するおそれがあります。プラグインとこれらの Microsoft 製品の互換性を維持するために、Plug-in for Microsoft 365 をインストールする前に、Windows レジストリに次の変更を加えてください。

```
[HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\Microsoft\.NETFramework\v2.0.50727]
"SystemDefaultTlsVersions"=dword:00000001
"SchUseStrongCrypto"=dword:00000001
```

```
[HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\Microsoft\.NETFramework\v4.0.30319]
"SystemDefaultTlsVersions"=dword:00000001
"SchUseStrongCrypto"=dword:00000001
```

```
[HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\.NETFramework\v2.0.50727]
"SystemDefaultTlsVersions"=dword:00000001
"SchUseStrongCrypto"=dword:00000001
```

```
[HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\.NETFramework\v4.0.30319]
"SystemDefaultTlsVersions"=dword:00000001
"SchUseStrongCrypto"=dword:00000001
```



# Azure AD および SharePoint Online の制限事項

Azure AD および SharePoint Online コンテンツのバックアップとリストアを目的として Plug-in for Microsoft 365 をインストールする際は、次の制限事項を考慮する必要があります。

Azure AD の場合：

- 本プラグインでは、メール対応のセキュリティグループおよび配布グループのリストアをサポートしていません。
- 本プラグインでは、サービスプリンシパルのクライアント秘密キーをリストアできません。
- バックアップ時に継承されたライセンスは、直接割り当てられたライセンスとしてリストアされます。

SharePoint Online の場合：

- 本プラグインでは、以下のタイプの SharePoint Online サイトリストのバックアップおよびリストアをサポートしていません。
  - プロセス図
  - プロモートされたリンク
  - 関連アクション
  - レポートライブラリ
  - ステータス付きの Web パーツページ
- 従来のチームサイトに対してのみ、本プラグインでは、アセットライブラリタイプリストのバックアップおよびリストアを行いません。

## プラグインのインストールまたはアップグレード

次のトピックでは、プラグインを単一のクライアントにインストールするプロセス、または既存のクライアントをアップグレードするプロセスについて説明します。同じタイプのクライアントが複数ある場合は、NetVault 設定ウィザードを使用して、複数のクライアントに同時にプラグインをインストールできます。プッシュインストールを使用して複数のクライアントを同時に更新する方法の詳細については、『Quest NetVault アドミニストレーターズガイド』を参照してください。

### プラグインをインストールまたはアップグレードするには

- 1 [ナビゲーション] パネルで、[クライアント管理] をクリックします。
- 2 [クライアント管理] ページで、表内の利用可能なクライアントを選択して、[管理] をクリックします。
- 3 [クライアント表示] ページで、[+] をクリックします。
- 4 プラグインの「.npk」インストールファイルの場所（インストール用 CD や、Web サイトからファイルをダウンロードしたディレクトリなど）へ移動します。  
インストール CD では、このソフトウェアのディレクトリ・パスは OS によって異なります。
- 5 「not-x-x-x-x.npk」というファイル（xxxxx はバージョン番号とプラットフォームを表す）を選択し、[開く] をクリックします。

プラグインが正常にインストールされると、メッセージが表示されます。

# プラグインの削除

## プラグインを削除するには

- 1 [ナビゲーション] パネルで、[クライアント管理] をクリックします。
- 2 [クライアント管理] ページで、利用可能なクライアントを選択して、[管理] をクリックします。
- 3 [クライアント表示] ページの [インストール済みソフトウェア] の表で、該当するプラグインを選択し、[－] をクリックします。
- 4 [確認] ダイアログ・ボックスで、[削除] をクリックします。

# ライセンスモデルのサポート ( )

現在、以下の Microsoft 365 ライセンスモデルがそれぞれのプランでサポートされています。

- Office 365 Enterprise プラン : E1、E3、および E5
- Microsoft 365 Enterprise プラン : E3、E5
- Office 365 Education プラン : A1、A3、および A5
- Microsoft 365 E5 開発者サブスクリプション

## プラグインの設定

- 設定用の証明書の追加
- Microsoft 365 管理ポータルを使用した設定の詳細の取得
- バックアップとリストアのための SharePoint Online の準備
- プラグインへの設定の詳細の入力
- マルチテナントのサポート
- 設定ファイルのパラメータの変更によるバックアップおよびリストアのパフォーマンスの向上

### 設定用の証明書の追加

Plug-in for Microsoft 365 は、証明書ベースの認証をサポートします。NetVault では、証明書サムプリントを使用して、Windows 証明書マネージャーから秘密鍵を取得します。

Microsoft では、ドメイン、キー、およびアクセスキー方式よりも証明書ベースの認証を推奨しています。認証に証明書を使用する理由は、次のとおりです。

- 資格情報のローテーションでは人為的なミスが発生しやすい。
- 証明書は資格情報よりも有効期間が長い（ほとんどの場合、1年以上）。
- 証明書を使用すると、Microsoft 資格情報マネージャー（Windows OS）、認証局、および Azure AD と責任が共有される。
- Microsoft Graph クライアントの最高レベルのセキュリティである。
- コンプライアンスのために資格情報の信頼性の高い暗号化が可能である。
- 認証の手段として証明書を設定に追加する前に、次のプロセスを実行します。

#### 設定用の証明書を追加するには

- 1 PowerShell を使用した自己署名証明書の作成
- 1 Azure AD 管理ポータルでの証明書の追加
- 1 ローカルマシン証明書ストアへの自己署名証明書のインポート

### PowerShell を使用した自己署名証明書の作成

#### PowerShell を使用して自己署名証明書を作成するには

- 1 次のスクリプトを管理者として実行します。

```
# --- config start
$dnsName = "mytenant.sharepoint.com" # Your DNS name
```

```

$password = "Come up with something secure!" # Certificate password

$folderPath = "C:\temp" # Where do you want the files to get saved to? The
folder needs to exist.

$fileName = "mycert" # What do you want to call the cert files? without the
file extension

$yearsValid = 10 # Number of years until you need to renew the certificate

# --- config end

$certStoreLocation = "cert:\LocalMachine\My"
$expirationDate = (Get-Date).AddYears($yearsValid)

$certificate = New-SelfSignedCertificate -DnsName $dnsName -CertStoreLocation
$certStoreLocation -NotAfter $expirationDate -KeyExportPolicy Exportable -
KeySpec Signature

$certificatePath = $certStoreLocation + '\' + $certificate.Thumbprint
$filePath = $folderPath + '\' + $fileName
$securePassword = ConvertTo-SecureString -String $password -Force -AsPlainText

Export-Certificate -Cert $certificatePath -FilePath ($filePath + '.cer')
Export-PfxCertificate -Cert $certificatePath -FilePath ($filePath + '.pfx') -
Password $securePassword

```

## Azure AD 管理ポータルでの証明書の追加

### Azure AD 管理ポータルで証明書を追加するには

- 1 Azure AD 管理ポータルにログインします。
- 2 **[証明書とシークレット (Certificates & secrets)]** に移動します。
- 3 **[証明書のアップロード]** をクリックします。
- 4 PowerShell スクリプトを使用して生成した .cer ファイルを選択し、**[追加]** をクリックします。
- 5 表示されたサムプリントをメモします。これは、[プラグインへの設定の詳細の入力](#)の際に必要な  
ります。

## ローカルマシン証明書ストアへの自己署名証明書のインポート

### 自己署名証明書をローカルマシン証明書ストアにインポートするには

- 1 Windows で MMC を実行します。
- 2 **[ファイル]** をクリックします。
- 3 **[スナップインの追加と削除]** をクリックします。

- 4 [スナップインの追加と削除] ウィンドウで、[証明書] を選択し、[追加] をクリックします。
- 5 プロンプトが表示されたら、コンピュータアカウントを選択して、[次へ] をクリックします。
- 6 [ローカル コンピューター] (デフォルトで選択) を選択し、[完了] をクリックします。
- 7 [スナップインの追加と削除] ウィンドウで、[OK] をクリックします。
- 8 MMC メインコンソールで、プラス (+) 記号をクリックして証明書スナップインを展開します。
- 9 [個人] | [証明書] ペインに移動します。
- 10 証明書パネル内を右クリックし、[すべてのタスク] | [インポート] をクリックして、証明書のインポート ウィザードを開きます。
- 11 秘密鍵をパスワード付きでインポートするには、証明書のインポート ウィザードに従います。

**i** | **メモ** : SharePoint Online のバックアップとリストアでは、秘密鍵は、ローカルコンピュータで管理される証明書とともに個人用フォルダに存在する必要があります。

## Microsoft 365 管理ポータルを使用した設定の詳細の取得

また、Microsoft 365 管理ポータルから設定情報を取得して、プラグインの設定セクションにその情報を入力することもできます。

### Microsoft 365 管理ポータルを使用して設定の詳細を取得するには

- 1 [admin.microsoft.com](https://admin.microsoft.com) にアクセスします。
- 2 左側のナビゲーションパネルで、[すべて表示] をクリックし、リストから [Azure Active Directory] を選択します。
- 3 **Azure Active Directory 管理センター**の [すべてのサービス] で、[Azure Active Directory] をクリックします。
- 4 [管理] セクションで、[アプリの登録] をクリックし、[新規登録] をクリックします。
- 5 以下のフィールドに入力します。
  - **名前** : NetVault プラグインの名前 (**PluginMicrosoft365** など) を入力します。
  - **サポートされるアカウント タイプ** : このアプリケーションを使用できるユーザーまたはこの API にアクセスできるユーザーを指定するには、[任意の組織ディレクトリ内のアカウント (任意の Azure AD ディレクトリ - マルチテナント)] を選択します。
  - **リダイレクト URI** : NetVault とのやり取りに使用する URI (<https://<machineName>:8443> など) を入力します。
- 6 [登録] をクリックし、表示されるページにリストされる **アプリケーション ID** をメモします。

Quest では、テキストファイルにコピーして保存するなどして、この情報を記録することを強くお勧めします。
- 7 [概要] ページの [管理] で、[認証] をクリックします。
- 8 [詳細設定] セクションで、[パブリック クライアント フローを許可する] の横にある [はい] を選択します。
- 9 [管理] セクションで、[API のアクセス許可] をクリックします。
- 10 [API のアクセス許可] で、[アクセス許可の追加 (Add a permission)] をクリックします。
- 11 次のいずれかのオプションのを選択します。

- **API を選択します** : この方法を使用するには、**[Microsoft Graph]** または **[SharePoint]** を選択し、**[選択]** をクリックします。
- **アクセス許可を選択します (Select permissions)** : このオプションを使用するには、次の手順を実行します。
  - a **[アプリケーションの許可]** を選択し、次の項目を選択します。
    - **Calendars.Read**
    - **Calendars.ReadWrite**
    - **ChannelMember.ReadWrite.All**
    - **ChannelMessage.Read.All**
    - **Directory.ReadWrite.All**
    - **Files.Read.All**
    - **Files.ReadWrite.All**
    - **Group.Read.All**
    - **Group.ReadWrite.All**
    - **Mail.Read**
    - **Mail.ReadWrite**
    - **MailboxSettings.Read**
    - **MailboxSettings.ReadWrite**
    - **Reports.Read.All**
    - **Sites.FullControl.All**
    - **Sites.Manage.All**
    - **Sites.Read.All**
    - **Sites.ReadWrite.All**
    - **Team.ReadBasic.All**
    - **TeamMember.Read.Group**
    - **TeamMember.ReadWrite.All**
    - **TeamSettings.Read.All**
    - **TeamSettings.ReadWrite.All**
    - **User.Read.All**
    - **User.ReadWrite.All**
  - b **[SharePoint]** を展開し、以下の項目を選択します。
    - **Sites.FullControl.All**
  - c **[委任されたアクセス許可]** を選択し、以下項目を選択します。
    - **ChannelMessage.Read.All**
    - **Group.ReadWrite.All**
    - **User.Read** (このアクセス許可は、登録済みアプリにデフォルトで追加されます)
  - d **[アクセス許可の追加 (Add permissions)]** をクリックします。
  - e プラグインの設定後に Plug-in for Microsoft 365 にアクセス許可を割り当てるには、**[必要なアクセス許可]** タブで **[アクセス許可の付与]** をクリックし、確認メッセージが表示されたら **[はい]** をクリックします。

**i** | **メモ** : Azure AD サービスプリンシパルをバックアップおよびリストアするには、プラグインの設定に使用される登録済みアプリケーションがグローバル管理者およびアプリケーション管理者である必要があります。

**メモ** : 「チーム」アクセス許可がないと、Microsoft Teams アプリケーションにアクセスできなくなったりバックアップが部分的になったりします。

12 **【管理】** タブの **【証明書とシークレット】** セクションで、**【新しいクライアントシークレット】** をクリックして、プラグインで使用するパスワードを作成します。

13 説明を入力し、期間オプションを選択します。

必要に応じて、開始日と終了日を選択して、パスワードの有効期限を指定できます。

14 **【追加】** をクリックし、**【値】** ボックスの情報をメモします。

Quest では、以前に作成して保存したのと同じテキストファイルにコピーするなどして、この情報を記録することを強くお勧めします。

**i** | **重要** : 後でこの鍵を取得することはできません。プラグインを設定するときに参照用に鍵を記録していない場合は、新しい鍵を生成する必要があります。

15 Microsoft 365 に使用するドメイン名を確認するには、左側のナビゲーションパネルで **【Azure Active Directory】** を再度クリックします。

16 **【概要】** をクリックし、ドメイン名をメモします。

**i** | **メモ** : Quest では、テキストファイルにコピーして保存するなどして、この情報を記録することをお勧めします。

## バックアップとリストアのための SharePoint Online の準備

Plug-in for Microsoft 365 を使用して SharePoint Online データを保護するには、SharePoint Online CSOM API のアクセス許可を割り当てる必要があります。

### バックアップとリストアのために SharePoint Online を準備するには

1 テナント管理者アカウントを使用して SharePoint Online テナントサイトを開きます。

例 : `https://<tenant>-admin.sharepoint.com/_layouts/15/appinv.aspx`。

2 **【アプリ ID】** テキストボックスに、Azure Active Directory から生成されたクライアント ID を入力します。

3 **【参照】** をクリックします。

4 **【アプリドメイン】** で、「`www.localhost.com`」と入力します。

5 **【リダイレクト URL】** で、「`https://www.localhost.com`」と入力します。

6 **【権限の要求 XML】** で、次の XML スクリプトを入力します。

```
<AppPermissionRequests AllowAppOnlyPolicy="true"> <AppPermissionRequest  
Scope="http://sharepoint/content/tenant" Right="FullControl" />  
</AppPermissionRequests>
```

7 **【作成】** をクリックします。

8 ダイアログで、**【信頼する】** をクリックします。

# プラグインへの設定の詳細の入力

アプリケーション ID、パスワード、およびドメイン名を特定したら、プラグインの設定セクションにこの情報を入力する必要があります。

**i** | **メモ** : Plug-in for Microsoft 365 用に、以下のサイトに対するグローバル管理者アクセス権が必要になります。

- グループを含むチームサイト（プライマリ）
- ビジネスインテリジェンスセンター（クラシック）
- Visio プロセスリポジトリ（クラシック）
- 製品カタログ（クラシック）

**i** | **メモ** : Teams のバックアップ / リストアジョブを生成するには、プラグイン用に設定されたユーザーが Teams プラットフォームのメンバーである必要があります。

## プラグインに設定の詳細を入力するには

- 1 [ナビゲーション] パネルで、[バックアップジョブ作成] をクリックし、次に [セレクション] リストの横にある [ + ] をクリックします。
- 2 セレクション・ツリー内で適切なクライアント・ノードを開きます。
- 3 [Plug-in for Microsoft 365] をクリックして、コンテキスト・メニューから [設定] を選択します。
- 4 [テナントの追加 (Add Tenant)] ページで、テナント認証方式として次のいずれかのオプションを選択し、選択の詳細を入力します。

**i** | **メモ** : 「Microsoft 365 管理ポータルを使用した設定の詳細の取得」プロセス中に記録した情報を使用します。

- **テナント資格情報**
  - アプリケーションドメイン
  - アプリケーション ID
  - アプリケーションパスワード
- **証明書**
  - アプリケーションドメイン
  - アプリケーション ID
  - 証明書サムプリント

**i** | **メモ** : NetVault では、証明書サムプリントを使用して、Windows 証明書マネージャーから秘密鍵を取得します。

**!** | **注意** : これらの設定の入力や更新には、WebUI の [設定変更] オプションは使用しないでください。

- 5 Teams を保護する場合は、[グローバル管理者資格情報の入力] チェックボックスを選択し、管理者のユーザー名とパスワードを入力します。  
管理者が**グローバル管理者**ロールを割り当てられており、かつ保護する Teams の所有者またはメンバーであることを確認します。UPN (User Principal Name) 形式 (**user1@testdomain.onmicrosoft.com** など) を使用して、[**管理者ユーザー名**] フィールドに入力します。
- 6 設定を保存するには、[OK] をクリックします。  
アカウントが適切に設定されている場合は、**Plug-in for Microsoft 365** ノードをクリックすると、利用可能なメールボックスと OneDrive ユーザーおよびグループを表示できます。

**i** | **メモ** : Plugin for Microsoft 365 では、プロキシを介したグラフィサーバへの接続をサポートしていません。



# マルチテナントのサポート

Plug-in for Microsoft 365 では、マルチテナントがサポートされ、これにより複数のテナントのデータをバックアップおよびリストアできます。マルチテナントのサポートには、以下のような利点もあります。

- **コスト削減。** 単一のプラグインを展開して複数のテナントを管理できるため、マネージドサービスプロバイダ（MSP）のコストを削減できます。
- **即時リカバリ。** 既存のドメインに対するランサムウェア攻撃が発生した場合に、新しいドメインを使用して即座にリカバリできます。
- **クロステナントリストア。** 合併や買収の際に使用できます。クロステナント再配置の詳細については、「[The mailbox is restored with its new name to the original location as a subset of the original mailbox.](#)」を参照してください。

すべてのテナントを表示するには、[NetVault セレクション] の下にあるプラグインのクリックメニューで **[開く]** アクションを使用します。

このセクションには、以下のプロセスが含まれています。

- [テナントの追加](#)
- [テナントの編集](#)
- [テナントの削除](#)

## テナントの追加

テナントを追加するには

- 1 [NetVault セレクション] で、**[Plug-in for Microsoft 365]** をクリックします。
- 2 メニューの **[テナントの追加 (Add Tenant)]** をクリックします。
- 3 [テナントの追加 (Add Tenant)] ページで、テナント認証方式として次のいずれかのオプションを選択し、選択の詳細を入力します。

**i** | **メモ:** 「Microsoft 365 管理ポータルを使用した設定の詳細の取得」プロセス中に記録した情報を使用します。

- **テナント資格情報**
  - アプリケーションドメイン
  - アプリケーション ID
  - アプリケーションパスワード
- **証明書**
  - アプリケーションドメイン
  - アプリケーション ID
  - 証明書サムプリント

**i** | **メモ:** NetVault では、証明書サムプリントを使用して、Windows 証明書マネージャーから秘密鍵を取得します。

- 4 必要に応じて、[グローバル管理者の詳細 (Global Administrator Details)] で **[グローバル管理者資格情報の入力]** を選択し、管理者のユーザー名とパスワードを入力します。
- 5 **[OK]** をクリックします。

# テナントの編集

## テナントを編集するには

- 1 [NetVault セレクション] で、[Plug-in for Microsoft 365] を展開し、ドメインをクリックします。
- 2 メニューの [編集] をクリックします。
- 3 [テナントの追加 (Add Tenant)] ページで、テナント認証方式として次のいずれかのオプションを選択し、選択の詳細を入力します。

**i** | **メモ** : 「Microsoft 365 管理ポータルを使用した設定の詳細の取得」プロセス中に記録した情報を使用します。

- **テナント資格情報**
  - アプリケーションドメイン
  - アプリケーション ID
  - アプリケーションパスワード
- **証明書**
  - アプリケーションドメイン
  - アプリケーション ID
  - 証明書サムプリント

**i** | **メモ** : NetVault では、証明書サムプリントを使用して、Windows 証明書マネージャーから秘密鍵を取得します。

- 4 必要に応じて、[グローバル管理者の詳細 (Global Administrator Details)] で [グローバル管理者資格情報の入力] を選択し、管理者のユーザー名とパスワードを入力します。
- 5 [OK] をクリックします。

# テナントの削除

## テナントを削除するには

- 1 [NetVault セレクション] で、[Plug-in for Microsoft 365] を展開し、ドメインをクリックします。
- 2 メニューの [削除] をクリックします。
- 3 選択内容を確定するには、[OK] をクリックします。

# 設定ファイルのパラメータの変更によるバックアップおよびリストアのパフォーマンスの向上

Microsoft Outlook、SharePoint Online、Teams、OneDrive の各アカウントのバックアップジョブおよびリストアジョブのパフォーマンスを管理する場合は、「nvoffice.cfg」ファイル内の以下のパラメータを変更できます。このファイルのデフォルトの場所は **C:\Program Files\Quest\NetVault\config** です。

使用する値は、バックアップジョブおよびリストアジョブの [マルチストリーミングを有効にする] オプションで選択した値、およびネットワークでサポートされている帯域幅によって異なります。

次の表に、パラメータ、デフォルト設定、およびその影響の説明を示します。

表 1. ネットワークの復元力に関してサポートされているパラメータ

パラメータ	デフォルト	説明
Resiliency:Retry Count	3	障害発生後にプラグインが GRAPH API を実行する回数を示します。
Resiliency:Retry Delay	5 (単位 : 秒)	障害発生後にプラグインが GRAPH API を再実行するまでに待機する時間を示します。

表 2. Outlook に関してサポートされているパラメータ

パラメータ	デフォルト	説明
MsOutlook:Mails Without Attachment	1000	GRAPH API の 1 回の呼び出しでフェッチできる、添付ファイルのない電子メールメッセージの数を示します。値 1000 は最大許容値です。
MsOutlook:Mails With Attachment	10	GRAPH API の 1 回の呼び出しでフェッチできる、添付ファイル付きの電子メールメッセージの数を示します。添付ファイルのサイズとネットワーク帯域幅に応じて、この値を大きくしてデータ転送速度を上げることができます。
MsOneDrive:Restore Chunk Size	5 (単位 : MB)	OneDrive 上のチャンクで電子メールの添付ファイルとイベントタイプの添付ファイルをリストア (アップロード) するために使用できるチャンクサイズを示します。チャンクサイズは 320 KiB (327,680 バイト) の倍数にする必要があります。320 KiB で割り切れないチャンクサイズを使用した場合、一部のファイルのコミット時にエラーが発生します。ネットワーク帯域幅に応じて、この値を大きくしてデータ転送速度を上げることができます。サポートされている速度を超えると、GRAPH API によってタイムアウト例外が生成される場合があります。

表 3. OneDrive に関してサポートされているパラメータ

パラメータ	デフォルト	説明
MsOneDrive:Backup Chunk Size	5 (単位 : MB)	ファイルをバックアップ (ダウンロード) するために使用できるチャンクサイズを示します。チャンクサイズは 320 KiB (327,680 バイト) の倍数にする必要があります。320 KiB で割り切れないチャンクサイズを使用した場合、一部のファイルのコミット時にエラーが発生します。ネットワーク帯域幅に応じて、この値を大きくしてデータ転送速度を上げることができます。サポートされている速度を超えると、GRAPH API によってタイムアウト例外が生成される場合があります。
MsOneDrive:Parallel Files Metadata per folder	1000	GRAPH API の 1 回の呼び出しでフェッチできる、メタデータを持つファイルの数を示します。値 1000 は最大許容値です。
MsOneDrive:Restore Chunk Size	5 (単位 : MB)	ファイルをリストア (アップロード) するために使用できるチャンクサイズを示します。チャンクサイズは 320 KiB (327,680 バイト) の倍数にする必要があります。320 KiB で割り切れないチャンクサイズを使用した場合、一部のファイルのコミット時にエラーが発生します。ネットワーク帯域幅に応じて、この値を大きくしてデータ転送速度を上げることができます。サポートされている速度を超えると、GRAPH API によってタイムアウト例外が生成される場合があります。
MsOneDrive:Enable Parallel Download per User	TRUE	OneDrive ユーザーごとに OneDrive ファイルの並列ダウンロードを可能にします。それ以外の場合、ファイルは順次ダウンロードされます。

表 3. OneDrive に関してサポートされているパラメータ

パラメータ	デフォルト	説明
MsOneDrive:Maximum Parallel Download Sessions per User	20	ファイルの並列ダウンロード数を制御します。デフォルトでは、20 個のダウンロードセッションがいつでも実行され、最大 20 ファイルが並列にダウンロードされます。
MsOneDrive:File Size Limit in Parallel Download Sessions	2048 (単位 : KB)	ファイルを並列ダウンロードから除外します。このパラメータ値以下のサイズのファイルのみが並列にダウンロードされます。

表 4. SharePoint Online に関してサポートされているパラメータ

パラメータ	デフォルト	説明
MsSharePoint:Backup Chunk Size	5 (単位 : MB)	ファイルをバックアップ (ダウンロード) するために使用できるチャンクサイズを示します。チャンクサイズは 320 KiB (327,680 バイト) の倍数にする必要があります。320 KiB で割り切れないチャンクサイズを使用した場合、一部のファイルのコミット時にエラーが発生します。ネットワーク帯域幅に応じて、この値を大きくしてデータ転送速度を上げることができます。サポートされている速度を超えると、GRAPH API によってタイムアウト例外が生成される場合があります。
MsSharePoint:Enable Parallel Download per Site	TRUE	SharePoint サイトごとに SharePoint ファイルの並列ダウンロードを可能にします。それ以外の場合、ファイルは順次ダウンロードされます。
MsSharePoint:Maximum Parallel Download Sessions per Site	20	ファイルの並列ダウンロード数を制御します。デフォルトでは、20 個のダウンロードセッションがいつでも実行され、最大 20 ファイルが並列にダウンロードされます。
MsSharePoint:File Size Limit in Parallel Download Sessions	2048 (単位 : KB)	ファイルを並列ダウンロードから除外します。このパラメータ値以下のサイズのファイルのみが並列にダウンロードされます。
MsSharePoint:Parallel Files Metadata per Folder	1000	Graph API の 1 回の呼び出しで複数のファイルのメタデータを取得します。これは実現可能な最大値です。このパラメータは、パラメータ [MsSharePoint:Enable Parallel Download per Site] の値が FALSE に設定されている場合にのみ適用されます。

表 5. Teams に関してサポートされているパラメータ

パラメータ	デフォルト	説明
MsTeams:Backup Chunk Size	5 (単位 : MB)	ファイルをバックアップ (ダウンロード) するために使用できるチャンクサイズを示します。チャンクサイズは 320 KiB (327,680 バイト) の倍数にする必要があります。320 KiB で割り切れないチャンクサイズを使用した場合、一部のファイルのコミット時にエラーが発生します。ネットワーク帯域幅に応じて、この値を大きくしてデータ転送速度を上げることができます。サポートされている速度を超えると、GRAPH API によってタイムアウト例外が生成される場合があります。
MsTeams:Enable Parallel Download per Team	TRUE	Teams チャンネルごとに Teams ファイルの並列ダウンロードを可能にします。それ以外の場合、ファイルは順次ダウンロードされます。

表 5. Teams に関してサポートされているパラメータ

パラメータ	デフォルト	説明
MsTeams:Maximum Parallel Download Sessions per Team	20	ファイルの並列ダウンロード数を制御します。デフォルトでは、20 個のダウンロードセッションがいつでも実行され、最大 20 ファイルが並列にダウンロードされます。
MsTeams:File Size Limit in Parallel Download Sessions	2048 (単位 : KB)	ファイルを並列ダウンロードから除外します。このパラメータ値以下のサイズのファイルのみが並列にダウンロードされます。

# データのバックアップ

- バックアップおよびリカバリ戦略の定義
- 除外および包含に使用するパターンの追加
- バックアップの実行

## バックアップおよびリカバリ戦略の定義

Microsoft 365 のバックアップを作成する目的は、メディア障害またはデータの破損によって損傷したメールボックスまたはサイトのコンテンツをリカバリすることです。バックアップを使用して確実にリカバリするには、定義されたビジネス要件を考慮して、データの可用性を最大限に確保しながらデータ損失を最小限に抑えるよう戦略を策定する必要があります。

戦略は、バックアップ要素とリストア要素の2つの要素からなります。

- バックアップ要素では、データベースの可用性確保およびデータ損失の最小化の目標を達成するために必要なバックアップのタイプと実行頻度を定義します。
- リストア要素では、リストアの実行責任者と、特定タイプの損傷または障害からリカバリするためにどのようなリストアを実行するかを定義します。

バックアップ計画には、バックアップの実行間隔、バックアップの保管方法、バックアップの保持期間、バックアップメディアの再利用方法を定義する必要があります。

プラグインでは、以下のバックアップ・タイプを使用できます。

- **フル・バックアップのみ**：バックアップサイズが小さい、バックアップウィンドウに問題はない、またはストレージメディアの制約がない場合は、フルバックアップのみを実行することができます。このようなシナリオの場合、フル・バックアップのタイミングを、更新頻度に応じて、毎晩またはN時間ごとに設定することができます。

問題が発生した場合、プラグインで実行する必要があるのは、1つのセーブセットのリストアだけです。

- **フル・バックアップと増分バックアップ**：短時間でバックアップを行い、ストレージ・メディアの消費を最低限に抑えるには、フル・バックアップと増分バックアップを計画に含めることができます。たとえば、データの更新頻度に応じて、毎週日曜日にフル・バックアップを実行し、毎日またはN時間ごとに増分バックアップを実行するようにスケジュールできます。

障害発生時には、最新のフル・バックアップとそれ以降に実施された増分バックアップから順番にデータをリストアする必要があります。複数の増分セーブセットからデータをリストアする必要がある場合は、リストアに時間がかかります。たとえば土曜日に障害が発生した場合は、前の日曜日に行われたフル・バックアップ、および月曜から金曜に実施された増分バックアップからデータをリストアする必要があります。

- **メモ**：Teams の場合、フルバックアップにはすべての標準項目が含まれます。増分バックアップには、ファイル、フォルダ、およびチャットメッセージが含まれます。

# 除外および包含に使用するパターンの追加

バックアップ選択ツリーから、バックアップするすべての選択したユーザーメールボックスと各テナントについて、包含および除外するメールボックス、メールボックスフォルダ、ユーザー、サイト、およびチームのパターンを作成して保存できます。除外または包含するパターンのいずれか、または両方を指定すると、プラグインは、そのパターンをバックアップセレクションセットとともに保存します。バックアップ・ジョブを送信するときに、保存したパターンを持つセットを選択することができます。すると、プラグインによって、指定した包含または除外パターンに一致するフォルダ名を持つメールボックスがバックアップリストに入力されます。指定できるパターンの数に制限はありません。除外が優先されることに注意してください。

## 除外と包含に使用するパターンを追加するには

- [ナビゲーション] パネルで、[バックアップジョブ作成] をクリックし、次に [セレクション] リストの横にある [ + ] をクリックします。
  - セレクション・ツリー内で適切なクライアント・ノードを開きます。
  - [Plug-in for Microsoft 365] をクリックし、コンテキストメニューから [包含 / 除外を表示] を選択します。  
[包含パターン] および [除外パターン] という 2 つのサブノードが **Microsoft 365** ノードに追加されます。
  - 包含パターンよりも優先される除外パターンを指定するには、次の手順を実行します。
    - [除外パターン] をクリックし、次のいずれかのオプションを選択します。
      - フォルダパターンの追加
        - i | メモ:** [フォルダパターンの追加] 機能では、メールボックスフォルダのみをサポートします。OneDrive、SharePoint Online、または Teams はサポートしていません。
      - ユーザーパターンの追加 (Add User Pattern)
        - i | メモ:** [ユーザーパターンの追加 (Add User Pattern)] では、選択したユーザー、サイト、チームの除外と包含をサポートします。
    - [除外パターンを入力] ダイアログボックスで、除外するパターンを入力し、[OK] をクリックします。  
POSIX (Portable Operating System Interface) 正規表現 (regex) を使用して、除外パターンを作成します。たとえば、[迷惑メール] フォルダを除外する場合は、「迷惑\*」と入力します。
  - 包含パターンを指定するには、次の手順を実行します。
    - [包含パターン] をクリックし、次のいずれかのオプションを選択します。
      - フォルダパターンの追加
      - ユーザーパターンの追加 (Add User Pattern)
    - [包含パターンを入力] ダイアログボックスで、包含するパターンを入力し、[OK] をクリックします。  
POSIX regex を使用して、包含パターンを作成します。たとえば、A ~ G または A ~ g で始まるすべてのメールボックスを選択する場合は、「^[a-gA-G]」と入力します。
      - i | メモ:** 除外および包含機能は、すべての regex パターンをサポートしています。
- 対応するサブノードの下に新しいパターンを持つ情報ノードが一覧表示されます。バックアップジョブを設定するときに、適用可能なパターンを選択または選択解除できます。
- 完了したら、[保存] をクリックして、[新規セットの作成] ダイアログボックスに名前を入力し、[保存] をクリックします。  
名前には英数字と英数字以外の文字を使用できますが、非ラテン語系の文字を含めることはできません。Windows の場合、長さ制限はありません。ただし、すべてのプラットフォームで、40 文字以内であることをお勧めします。



# バックアップの実行

プラグインを使用してバックアップを実行するには、以下のトピックで説明する手順に従います。

- [バックアップ対象データの選択](#)
- [バックアップ・オプションの設定](#)
- [バックアップジョブのファイナライズと実行](#)

## バックアップ対象データの選択

バックアップ・ジョブを作成するには、セット（バックアップ・セレクション・セット、バックアップ・オプション・セット、スケジュール・セット、ターゲット・セット、および詳細設定セット）を使用する必要があります。

バックアップ・セレクション・セットは、増分バックアップに必要です。フルバックアップを実行中にバックアップセレクションセットを作成してから、フルバックアップと増分バックアップに使用します。増分バックアップにセレクション・セットが使用されていない場合、バックアップ・ジョブがエラーをレポートします。詳しくは、『Quest NetVault アドミニストレーターズ・ガイド』を参照してください。

- 1 [ナビゲーション] パネルで、[バックアップ・ジョブ作成] をクリックします。

[ガイド付き設定] リンクからもウィザードを開始できます。[ナビゲーション] パネルで、[ガイド付き設定] をクリックします。[NetVault 設定ウィザード] ページで、[バックアップ・ジョブ作成] をクリックします。

- 2 [ジョブ名] に、ジョブの名前を指定します。

ジョブの進捗状況の監視やデータのリストアップ時にジョブを識別しやすくするため、分かりやすい名前を割り当てます。ジョブ名には英数字と英数字以外の文字を使用できますが、非ラテン語系の文字を含めることはできません。Windows の場合は長さ制限はありませんが、40 文字以内に収めることをお勧めします。

- 3 [セレクション] リストの横にある、[+] をクリックします。

- 4 プラグインのリストで、**Plug-in for Microsoft 365**、テナントノードの順に開き、以下の該当するアクションを実行します。

- Outlook、OneDrive、SharePoint Online、または Teams のバックアップジョブを作成している場合は、[Microsoft 365 アプリ] ノードを展開し、該当する項目を選択します。
- Azure AD のバックアップジョブを作成する場合は、ユーザー、グループ、またはサービスプリンシパルの [AzureAD] ノードを選択します。

**i** **メモ：** 単一のセレクションセットでは、Microsoft 365 アプリケーションの項目または Azure AD の項目を選択できますが、両方を選択することはできません。Microsoft 365 項目と Azure AD 項目は別々のセレクションセットにリストアップする必要があります。Azure AD 項目の既存のセレクションセットを編集するときに、Microsoft 365 アプリケーション項目を追加する場合は、Azure AD 項目を選択解除する必要があります。同様に、Microsoft 365 項目の既存のセレクションセットに Azure AD 項目を追加する場合は、他の Microsoft 365 項目を選択解除する必要があります。

- 5 [保存] をクリックして、[新規セットの作成] ダイアログ・ボックスに名前を入力し、[保存] をクリックします。

名前には英数字と英数字以外の文字を使用できますが、非ラテン語系の文字を含めることはできません。Windows の場合、長さ制限はありません。ただし、すべてのプラットフォームで、40 文字以内にすることをお勧めします。



# バックアップ・オプションの設定

次の手順には、バックアップ・オプション・セットの作成または既存のセットの選択が含まれています。

リリース 13.1 では、Microsoft 365 のすべての要素に関して細分化されたリストを実行できます。

**i** | **ヒント**：既存のセットを使用するには、**[プラグイン・オプション]** リストで使用するセットを選択します。

1 **[プラグインオプション]** リストの横にある **[+]** をクリックします。

**i** | **メモ**：ポップアップが表示されて WebUI が応答不能にならないようにするには、新しいプラグインセットを作成する前に **[編集]** をクリックして既存のデフォルトプラグインオプションを保存し、**[+]** アイコンをクリックします。

2 **[バックアップ・タイプ]** セクションで、利用可能なオプションを選択します。

- **フル・バックアップ**：選択したメールボックス（フォルダ、メッセージ、メールボックス設定、ルールなど）または選択した OneDrive または Teams ノードの完全なバックアップを実行するには、このオプションを選択します。
- **増分バックアップ**：前回のフルバックアップまたは増分バックアップ以降に選択したメールボックス、OneDrive、または Teams ノードで変更されたすべてのデータをバックアップするには、このオプションを選択します。

**i** | **メモ**：Teams の場合、フルバックアップにはすべての標準項目が含まれます。増分バックアップには、ファイル、フォルダ、およびチャットメッセージが含まれます。

詳細は、「**バックアップおよびリカバリ戦略の定義**」を参照してください。

- **[追加オプション]** セクションで、並列ストリームを使用してバックアップジョブの速度を上げる場合は、必要に応じて **[マルチストリーミングを有効にする]** を選択し、ストリーム数を指定します。

入力する値は、設定とネットワーク帯域幅によって異なります。最大値は 30 です。

セレクションセットに含まれるメールボックスの数が指定したストリーム数より少ない場合は、**[ストリーム数]** 設定が自動的に調整されます。

3 Outlook のバックアップジョブを設定する場合は、**[Outlook オプション]** セクションで、該当するオプションを選択します。

- **再開できるバックアップを有効化**：バックアップを一時停止し、停止した時点から再開できるようにするには、このオプションを選択します。

このオプションを使用すると、バックアップジョブを手動で中断できます。失敗したバックアップジョブは再開されません。

- **バックアップの添付ファイルを除外**：添付ファイルとインラインイメージをメッセージから除外する場合は、このオプションを選択します。

デフォルトでは、添付ファイルとインラインイメージがバックアップジョブに含まれます。添付ファイルを除外すると、バックアップのサイズが小さくなり、処理速度が向上します。

- **カレンダーのバックアップを除外**：カレンダーを除外する場合は、このオプションを選択します。

**i** | **メモ**：カレンダーとイベントがバックアップジョブに含まれている場合でも、項目タイプのイベント添付ファイルは除外されます。

4 **[セット名]** で、セットの名前を指定して、**[保存]** をクリックします。

名前には英数字と英数字以外の文字を使用できますが、非ラテン語系の文字を含めることはできません。Windows の場合は長さ制限はありませんが、40 文字以内に収めることをお勧めします。

# バックアップジョブのファイナライズと実行

- 1 [スケジュール]、[ターゲット・ストレージ]、および [詳細設定] リストを使用して、その他の必要なオプションを設定します。
- 2 [保存] または [保存 & 実行] の、どちらか適切な方をクリックします。

**i | ヒント:** 既に作成、保存しているジョブを実行するには、[ナビゲーション] パネルで [ジョブ定義管理] を選択し、目的のジョブを選択して、[今すぐ実行] をクリックします。

[ジョブ・ステータス] ページで進捗状況を監視したり、[ログ参照] ページでログを表示したりできます。詳細については、『Quest NetVault アドミニストレーターズガイド』を参照してください。

**i | ヒント:** 再起動機能は、メールボックス関連のバックアップジョブで使用できます。OneDrive 関連のバックアップジョブでは使用できません。

## 継続的なデータ保護バックアップ

[DNPO365-1757]

継続的なデータ保護 (CDP) は、NetVault でセレクションセットの最初のフルバックアップを取得した後、一連の増分バックアップを実行してバックアップを合成フルバックアップに統合する前に、セレクションセットの変更をキャプチャするときに行われます。この保護方法を使用すると、バックアップジョブの時間が短縮され、帯域幅の負荷が軽減され、スペースが節約されます。また、この保護方法では、フルと増分のバックアップジョブを個別に管理する必要はありません。

### 前提条件

継続的なデータ保護 (CDP) を実行するには、システムで QoreStor バージョン 7.1.2 以降を一次保管場所として使用する必要があります。

**i | メモ:** CDP は、QoreStor バージョン 7.1.2 以降でのみ使用できます。サポートされているデバイスのみが、使用可能なターゲットストレージとして表示されます。サポートされているデバイスがない場合は、ターゲットオプションとしてのデバイスは表示されません。

## 継続的なバックアップの実行

次の手順では、ビルトインの Plug-in for Microsoft 365 を使用してファイルを継続的にバックアップする方法について説明します。

- 継続的なバックアップの対象データの選択
- 継続的なバックアップオプションの設定
- 継続的なバックアップジョブのファイナライズと実行

## 継続的なバックアップの対象データの選択

次の手順に従って、バックアップするデータを選択します。

- 1 [ナビゲーション] パネルで、[継続的なバックアップジョブの作成] をクリックして、設定ウィザードを開始します。
- 2 [ジョブ名] に、ジョブの名前を指定します。

ジョブの進捗状況の監視やデータのリストアップ時にジョブを識別しやすくするため、分かりやすい名前を割り当てます。ジョブ名には英数字と英数字以外の文字を使用できますが、非ラテン語系の文字を含めることはできません。Windows の場合は長さ制限はありませんが、40 文字以内に収めることをお勧めします。

- 3 **【セレクション】** リストの横にある、**[+]** をクリックします。
- 4 プラグインのリストで、**Plug-in for Microsoft 365**、テナントノードの順に開き、以下の該当するアクションを実行します。
  - Outlook、OneDrive、SharePoint Online、または Teams のバックアップジョブを作成している場合は、**【Microsoft 365 アプリ】** ノードを展開し、該当する項目を選択します。

**i | メモ :** 合成バックアップでは、Azure Active Directory はサポートされません。

- 5 **【保存】** をクリックして、**【新規セットの作成】** ダイアログ・ボックスに名前を入力し、**【保存】** をクリックします。

名前には英数字と英数字以外の文字を使用できますが、非ラテン語系の文字を含めることはできません。Windows の場合、長さ制限はありません。ただし、すべてのプラットフォームで、40 文字以内にすることをお勧めします。

**i | メモ :** ビルトインの Plug-in for Data Copy には、継続的なデータ保護 (CDP) バックアップのコピーを作成する機能が用意されています。データコピーは、フルバックアップまたは合成フルバックアップのどちらか新しい方が許可されます。次回の合成フルバックアップが完了するようデータコピープラグインのスケジュールが設定されていることを確認します。

# 継続的なバックアップオプションの設定

次の手順には、バックアップ・オプション・セットの作成または既存のセットの選択が含まれています。

リリース 13.1 では、Microsoft 365 のすべての要素に関して細分化されたリストを実行できます。

**i** | **ヒント**：既存のセットを使用するには、**[プラグイン・オプション]** リストで使用するセットを選択します。

1 **[プラグインオプション]** リストの横にある **[+]** をクリックします。

**i** | **メモ**：ポップアップが表示されて WebUI が応答不能にならないようにするには、新しいプラグインセットを作成する前に **[編集]** をクリックして既存のデフォルトプラグインオプションを保存し、**[+]** アイコンをクリックします。

2 **[追加オプション]** セクションで、並列ストリームを使用してバックアップジョブの速度を上げる場合は、必要に応じて **[マルチストリーミングを有効にする]** を選択し、ストリーム数を指定します。

入力する値は、設定とネットワーク帯域幅によって異なります。最大値は 30 です。

セクションセットに含まれるメールボックスの数が指定したストリーム数より少ない場合は、**[ストリーム数]** 設定が自動的に調整されます。

3 Outlook のバックアップジョブを設定する場合は、**[Outlook オプション]** セクションで、該当するオプションを選択します。

- **再開できるバックアップを有効化**：バックアップを一時停止し、停止した時点から再開できるようにするには、このオプションを選択します。

このオプションを使用すると、バックアップジョブを手動で中断できます。失敗したバックアップジョブは再開されません。

- **バックアップの添付ファイルを除外**：添付ファイルとインラインイメージをメッセージから除外する場合は、このオプションを選択します。

デフォルトでは、添付ファイルとインラインイメージがバックアップジョブに含まれます。添付ファイルを除外すると、バックアップのサイズが小さくなり、処理速度が向上します。

- **カレンダーのバックアップを除外**：カレンダーを除外する場合は、このオプションを選択します。

**i** | **メモ**：カレンダーとイベントがバックアップジョブに含まれている場合でも、項目タイプのイベント添付ファイルは除外されます。

4 **[セット名]** で、セットの名前を指定して、**[保存]** をクリックします。

名前には英数字と英数字以外の文字を使用できますが、非ラテン語系の文字を含めることはできません。Windows の場合は長さ制限はありませんが、40 文字以内に収めることをお勧めします。

## 継続的なバックアップジョブのファイナライズと実行

**[スケジュール]**、**[ターゲット・ストレージ]**、および **[詳細設定]** リストを使用して、その他の必要なオプションを設定します。

**[スケジュール]** オプションを選択するには、クリックして、以下の手順を実行します。

- 1 **[スケジュール]** ウィンドウで、各増分ジョブの間隔を時間単位で設定します。最小値は 1 日です。
- 2 各合成フルバックアップの間隔を日単位で設定し、**[保存]** をクリックします。

[ターゲットストレージ] オプションを選択するには、クリックして、以下の手順を実行します。

**i** | **メモ** : CDP は、QoreStor バージョン 7.1.2 以降でのみ使用できます。サポートされているデバイスのみが、使用可能なターゲットストレージとして表示されます。サポートされているデバイスがない場合は、ターゲットオプションとしてのデバイスは表示されません。

- 1 [バックアップターゲット] ウィンドウで、使用可能な QoreStor デバイスを選択します。  
[保存] をクリックします。

[詳細設定] オプションを選択するには、クリックして、以下の手順を実行します。

- 1 合成フルバックアップを削除するまでの日数を選択します。
- 2 必要に応じて、[バックアップを不変にする] を選択します。

**i** | **メモ** : [詳細設定] で選択した時間の長さによって、バックアップを不変にする時間の長さも決まります。

- 3 [保存] をクリックします。
- 4 [バックアップジョブ作成] ページで、ジョブ実行をスケジュールするために、[保存 & 実行] をクリックします。
- 5 スケジュールしないでジョブ定義を保存するには、[保存] をクリックします。

このジョブは、[ジョブ定義管理] ページから、表示、編集、または実行することができます。実行しない限り、[ジョブステータス] ページにこのジョブは表示されません。

[ジョブ・ステータス] ページで進捗状況を監視したり、[ログ参照] ページでログを表示したりできます。詳細については、『Quest NetVault アドミニストレーターズガイド』を参照してください。

# データのリストア

- リストア対象データの選択
- リストアジョブのファイナライズと実行
- リストアプロセス中のメールボックスおよび OneDrive アカウントの再配置
- 細分化された項目の検索

## リストア対象データの選択

**i** **メモ** : Plug-in for Microsoft 365 は、サービスプリンシパルのクライアント秘密鍵のリストアをサポートしていません。


- 1 [ナビゲーション] パネルで、[リストア・ジョブ作成] をクリックします。
- 2 セーブセットの表に表示される項目をフィルタするには、[フィルタ] ▼ をクリックします。  
表には、セーブセット名（ジョブタイトルとセーブセット ID）、作成日時、サイズ、およびカタログのステータスが表示されます。デフォルトで、リストは [作成日] 列でソートされます。
- 3 セーブセットの表で、適切なセーブセットを選択します。  
セーブセットを選択すると、以下の情報が [セーブセット情報] に表示されます。ジョブ ID、ジョブ・タイトル、サーバー名、クライアント名、プラグイン名、セーブセットの日時、リタイア設定、増分バックアップかどうか、アーカイブかどうか、セーブセットのサイズ、スナップショットベースのバックアップかどうかなど。
- 4 以下のオプションの 1 つを選択します。
  - **デフォルトを使用してすべてをリストア** : 事前設定されたデフォルトを使用してリストアするには、このボタンをクリックして **ステップ 6** に進みます。
  - **リストア : [セレクションセット作成]** ページを使用してリストアする項目を選択するには、このボタンをクリックして次の手順に進みます。
- 5 [セレクション セット作成] ページで、リストアするデータを選択します。

**i** **メモ** : 再配置は Outlook および OneDrive で一般的にサポートされていますが、Teams や Azure AD アカウントではサポートされていません。

**メモ** : SharePoint Online サイトの発行ポータルテンプレートのバックアップを元の場所にリストアするのではなく再配置する場合は、このテンプレートのサイトを作成し、[再配置] オプションでリストアジョブに新しいサイトの名前を指定します。

**メモ** : 本プラグインでは、別のユーザーが作成したカレンダーやイベントのリストアをサポートしていません。


**メモ** : 本プラグインでは、あるユーザーから別のユーザーにメールボックスを再配置する際のカレンダーイベントのリストアをサポートしていません。

- 6 リストアジョブの速度を上げるには、以下の手順を実行します。
  - a [セクションセット作成] ページで、 をクリックし、[Microsoft 365 リストアオプション] ダイアログボックスの [全般] タブを選択します。
  - b [マルチストリーミングを有効にする] を選択し、ストリーム数を入力して、[OK] をクリックします。入力する値は、設定とネットワーク帯域幅によって異なります。最大値は 30 です。
- 7 該当するトピックの手順に進みます。
  - Outlook 用のリストアジョブを作成する場合は、次のセクション「Outlook のリストアオプションの設定」を実行します。
  - Azure AD 用のリストアジョブを作成する場合は、セクション「Azure AD のリストアオプションの設定」を実行します。
  - OneDrive、SharePoint Online、または Teams のリストアジョブを作成する場合は、「リストアジョブのファイナライズと実行」に進みます。

**i** **メモ** : Plug-in for Microsoft 365 では、同期が有効な状態でのオンプレミスで同期されたユーザーおよびグループのリストアをサポートしていません。

AD 同期を無効にした後、オンプレミスで同期された Windows Server Active Directory (AD) ユーザーを Azure AD から削除すると、そのユーザーは Azure AD ユーザーとしてリストアされます。管理者は、同期のたびに、Azure AD ユーザーに変更されたユーザーの重複する属性に関する電子メールを受信します。管理者が、該当するユーザーを Windows Server AD ユーザーとして再度同期する場合は、Azure AD からそのユーザーを削除し、再度同期する必要があります。


## Outlook のリストアオプションの設定

[セクションセット作成] ページで、 をクリックし、[Microsoft 365 リストアオプション] ダイアログボックスの [Outlook] タブで以下のパラメータを設定します。

- **メールボックスを特定のフォルダにリストア (Restore mailbox to particular folder)** : 選択したメールボックスフォルダをリストアする特定の場所を指定する場合は、このオプションを選択し、フォルダの名前を入力します。
- **メールボックス設定をリストア (Restore Mailbox Settings)** : 選択したメールボックスに関連付けられている設定とルールを含めるには、このオプションを選択します。
- **カレンダーを除外** : カレンダーを除外する場合は、このオプションを選択します。
- **添付ファイルを除外** : 添付ファイルとインラインイメージがバックアップに含まれている場合、リストアから添付ファイルとイメージを除外するには、このオプションを選択します。

**i** **重要** : 添付ファイルが含まれている場合、OneDrive アカウントへのリストアを実行するには、SharePoint Online ライセンスが必要です。

## Azure AD のリストアオプションの設定

[セクションセット作成] ページで、 をクリックし、[Microsoft 365 リストアオプション] ダイアログボックスの [Azure Active Directory] タブで以下のパラメータを設定します。

- **ユーザーのパスワードを設定** : 本プラグインでは、「config」ファイルからデフォルトのパスワード nvbu123\*#\$ がユーザーに割り当てられます。管理者は、このオプションを使用して、リストア時にドメインポリシーに一致する別のパスワードをユーザーに割り当てることができます。このパスワードは、Azure AD から削除された後にリストアされるすべてのユーザーに対して設定されます。
- **割り当てられたライセンスをスキップ** : デフォルトでは、Azure AD ユーザーのバックアップされたライセンスは、リストア操作によってすべて割り当てられます。これらのライセンスを割り当てない場合は、このオプションを選択します。



- **既存のアプリケーションを削除**：デフォルトでは、サービスプリンシパルに関連付けられている以前のアプリケーションは、サービスプリンシパルのリストア時に Azure AD から削除されません。サービスプリンシパルをリストアした後に既存のアプリケーションを Azure AD から削除する場合は、このオプションを選択します。

## リストアジョブのファイナライズと実行

最終ステップには、[スケジュール]、[ソース・オプション]、および [詳細設定] ページの追加オプション設定、ジョブの実行、および [ジョブ・ステータス] と [ログ参照] ページからの進捗状況の監視が含まれています。これらのページとオプションは、すべての NetVault プラグインに共通しています。詳細については、『Quest NetVault アドミニストレーターズガイド』を参照してください。

- 1 設定を保存するには、[OK]、続いて [次へ] をクリックします。
- 2 デフォルト設定を使用しない場合は、[ジョブ名] に、ジョブの名前を指定します。  
進捗状況を監視する際にジョブを識別しやすくするため、分かりやすい名前を割り当てます。ジョブ名には英数字と英数字以外の文字を使用できますが、非ラテン語系の文字を含めることはできません。Windows の場合は長さ制限はありませんが、40 文字以内に収めることをお勧めします。
- 3 [スケジュール]、[ソース・オプション]、および [詳細設定] リストを使って、その他の必要なオプションを設定します。
- 4 [保存] または [保存 & 実行] の、どちらか適切な方をクリックします。  
[ジョブ・ステータス] ページで進捗状況を監視したり、[ログ参照] ページでログを表示したりできます。詳細については、『Quest NetVault アドミニストレーターズガイド』を参照してください。

## リストアプロセス中のメールボックスおよび OneDrive アカウントの再配置

Plug-in for Microsoft 365 では、Outlook メールボックスレベルと OneDrive ユーザーレベルでの再配置をサポートしています。別のテナントのユーザーを含む任意のプラグインユーザーにデータを再配置できます。

### リストアプロセス中にメールボックスおよび OneDrive アカウントを再配置するには

- 1 前提条件を満たしたら、[リストア・ジョブ作成] をクリックします。
- 2 セーブセットの表に表示される項目をフィルタするには、[フィルタ] ▼ をクリックします。
- 3 バックアップセーブセットから目的のセーブセットを選択します。
- 4 [セクションセット作成] ページを使用して、リストアするメールボックスまたは OneDrive ユーザーアカウントを選択するには、[リストア] をクリックします。
- 5 [セクションセット作成] ページで、再配置するメールボックスまたは OneDrive ユーザーアカウントをクリックし、コンテキストメニューから [名前の変更] を選択します。

**i 重要**：以前に電子メール ID を入力している場合でも、該当するメールボックスまたは OneDrive ユーザーアカウントのチェックボックスが自動で選択されることはありません。メールボックスまたは OneDrive ユーザーアカウントを手動で選択する必要があります。

- 6 [名前変更 / 再配置] ダイアログボックスの [再配置] ボックスにメールボックスまたは OneDrive ユーザーアカウントの新しい場所を入力して、[OK] をクリックします。
- 7 「Outlook のリストアオプションの設定」 および 「リストアジョブのファイナライズと実行」の説明に従って、リストア手順を続行します。  
メールボックスは、元のメールボックスのサブセットとして、元の場所に新しい名前でリストアされます。



# 別のテナントユーザーへのメールボックスおよび OneDrive アカウントの再配置

Plug-in for Microsoft 365 では、Outlook および OneDrive データのクロステナント再配置をサポートしています。あるテナントのユーザーから別のテナントのユーザーにメールボックスまたは OneDrive データをリストアするには、「[リストアプロセス中のメールボックスおよび OneDrive アカウントの再配置](#)」を参照してください。

## 細分化された項目の検索

**[リストアジョブ作成 – セーブセットの選択]** ページの **[検索]** オプションにより、セーブセットを開いたり、そのコンテンツを参照したりすることなく、特定のファイルやデータアイテムを検索することができます。ファイル名、正規表現、またはチーム名を利用して、リストアするデータアイテムを検索したり、件名、送信者、受信者、および受信日時を使用して電子メールメッセージを検索したりできます。また、Azure AD バックアップ内で Azure AD ユーザー、グループ、またはサービスプリンシパルを検索したり、**[名前]** 基準を使用してサイト名で SharePoint Online セーブセットを検索したりすることもできます。

カタログ検索を設定または有効にするには、**[ナビゲーション]** パネルから **[カタログ検索]** を選択します。カタログ検索では、Elasticsearch で使用される正規表現構文がサポートされます。Elasticsearch の詳細については、<https://www.elastic.co/guide/en/elasticsearch/reference/current/query-dsl-regexp-query.html> を参照してください。カタログ検索の詳細については、『Quest NetVault アドミニストレーターズガイド』を参照してください。

### セーブセットのアイテムを検索するには：

- 1 **[リストア・ジョブ作成 – セーブセットの選択]** ページで **[検索]** をクリックします。
  - 2 **[セーブセット内のファイルを検索します]** ダイアログ・ボックスで、以下のオプションを設定します。
    - **[検索する文字列]**：検索する文字列を入力します。
    - **[正規表現検索]**：**[検索する文字列]** ボックスで POSIX 正規表現を使用する場合は、このチェックボックスを選択します。
    - **[従来の検索方法を使用する]**：カタログ化されたセーブセットとカタログ化されていないセーブセットの両方が検索に含まれている場合は、このチェック・ボックスが表示されます。  
カタログ化されていないセーブセットのみが検索に含まれている場合、または **[従来の検索方法を使用する]** を選択している場合は、従来の検索が使用されます。  
カタログ化されたセーブセットのみが検索に含まれている場合、または **[従来の検索方法を使用する]** にチェックが付いていない場合は、カタログ検索が使用されます。
- i** **メモ**：Outlook のバックアップに対しては、**[件名]**、**[送信者]**、**[受信者]**、**[受信日時]** を使用して検索対象を絞り込むことができます。
- 3 1 つまたは複数の特定のセーブセット内で検索するには、該当するセーブセットを選択し、**[検索]** をクリックします。  
セーブセットを選択していない場合は、すべてのセーブセットが検索に含まれます。**[検索結果]** ページには、指定したファイルまたはデータ・アイテムを含むセーブセットが表示されます。
  - 4 リストアする項目を選択します。  
1 つのセーブセットからのみ項目をリストアできます。
  - 5 **[選択した項目のリストア]** をクリックします。
  - 6 **[リストア対象データの選択]** の **ステップ 6** を実行します。

# トラブルシューティング

このトピックでは一般的なエラーとその解決方法について説明します。

表 6. トラブルシューティング

問題	説明
<ul style="list-style-type: none"> <li>バックアップ・レコードの追加に失敗しました</li> <li>バックアップ・インデックスをデータベースに書き込むことができませんでした</li> </ul> <p>これらのメッセージは、選択されたデータのバックアップは完了したものの、NetVault によってジョブのインデックス情報がデータベースに適切に追加されなかったことを示します。このインデックス情報が追加されていないと、データは正しくリストアされません。</p>	<p><b>方法 1 :</b></p> <p><b>[デバイス管理]</b> ページを開いてバックアップ・メディアを選択し、<b>[スキャン]</b> をクリックします。NetVault では、バックアップ・ジョブのインデックス情報は NetVault データベースとバックアップ対象メディアの双方に保存されます。このスキャンを実行することで、インデックス情報が NetVault データベースに書き込まれます。情報が追加されたことを確認するには、<b>[ジョブ定義管理]</b> ページを開いて対象のジョブを見つけます。ジョブを実行できるようになった場合、スキャン・プロセスにより問題が修正されています。</p> <p><b>方法 2 :</b></p> <p>方法 1 が失敗した場合は、バックアップ・ジョブを再実行します。</p>
<p>チャンネルメッセージがバックアップされず、Teams のチャンネルのリストア選択ツリーに<b>[会話]</b> タブが表示されません。</p>	<p>チャンネルにメッセージが含まれていない場合は、<b>[会話]</b> タブは選択ツリーに表示されません。ただし、チャンネルにメッセージが含まれている場合は、<b>[ログの表示]</b> ページで次のエントリを確認し、いずれかの解決方法を実装します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「ユーザーがチャンネルメッセージにアクセスできません。設定済みユーザーに必要なアクセス権があることを確認してから、再試行してください。」</li> </ul> <p><b>解決方法 :</b> この問題を回避するには、設定済みユーザーが、Teams の作成者であるか、問題が発生した特定のチームのメンバーまたは所有者であることを確認します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>「設定済みユーザーでは多要素認証が有効になっています。無効にしてから、再試行してください (バックアップチャンネルメッセージの場合)。」</li> </ul> <p><b>解決方法 :</b> 設定済みユーザーの多要素認証 (MFA) を無効にして、ジョブを再度実行します。</p> </p>

Quest は、急速に変化する企業 IT の世界にソフトウェア・ソリューションを提供します。データの急増、クラウドの拡張、ハイブリッド・データセンター、セキュリティの脅威、規制要件によって生じる課題を簡素化することができます。弊社は、Fortune 500 の 95% の企業および Global 1000 の 90% の企業など、100 か国におよぶ 130,000 社にサービスを提供するグローバルプロバイダーです。1987 年以来、データベース管理、データ保護、ID およびアクセス管理、Microsoft のプラットフォーム管理、統合エンドポイント管理などのソリューションのポートフォリオを構築してきました。Quest により、組織は IT 管理に費やす時間を短縮し、ビジネスの革新に費やす時間を増やすことができます。詳細については、<https://www.quest.com/jp-ja/> を参照してください。

## テクニカル・サポート用リソース

テクニカル・サポートは、Quest の有効な保守契約を締結している場合、または試用版を保有している場合にご利用いただけます。Quest サポート・ポータル (<https://support.quest.com/ja-jp>) にアクセスすることができます。

サポートポータルには、問題を自主的にすばやく解決するためのセルフヘルプツールがあり、24 時間 365 日ご利用いただけます。サポート・ポータルでは次のことを実行できます。

- サービス・リクエストの送信と管理。
- ナレッジベース記事の参照。
- 製品に関するお知らせへの登録。
- ソフトウェアと技術文書のダウンロード。
- 入門ビデオの視聴。
- コミュニティ・ディスカッションへの参加。
- サポート・エンジニアとのオンライン・チャット。
- 製品に関する支援サービスの表示。